

自 己 評 価 表

愛媛県立三崎高等学校
学校番号(37)

教育方針	生徒一人一人の個性を尊重し、ゆとりある伸び伸びとした学習活動を推進することにより、たくましく生きる力を育成する。	重点目標	1 進路決定100%に向け、一人一人に応じた指導を徹底する。 2 部活動と学校行事を充実させ、豊かな人間性を育てる。 3 地域に根ざした学校づくりとボランティア活動を積極的に推進する。 4 基本的な生活習慣を確立し、高い規範意識を育てる。 5 人権意識を高め、いじめや差別のない社会の実現を目指す。		
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	教育活動に関する方針に伴う活動	町や地域住民と連携して課題解決に取り組み、町内外から集まる仲間と切磋琢磨できる環境の充実を目指す。全職員でグラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを意識して地域全体が学びの場となるように工夫を続ける。	C	イベントカレンダーの作成等により、地域と連携することを心掛けているが、まだ継続して進めている段階である。また、各ポリシーに対する意識を徹底させることについても達成度としては低い。	本校の取組目標が継続できるよう、引き続き、取組を進めていきたい。そのためには各所との連携を密にして、情報交換を進めていくことが大切である。
	業務改善を目指す円滑な組織運営	ICT機器等を有効活用し、情報の共有を図るとともに、働きやすい環境づくりのために良好なPDCAサイクルを生み出す工夫を教職員同士で意見交換し、構築できるように取り組む。	B	校務支援システムを活用し、各職員の動向管理など情報を共有することができた。それに伴い、比較的働きやすい環境の整備につながったと考えている。	教職員同士の意見交換について課題が残る。職員室の机上を整理することにより会話がしやすい環境の整備を行ったが、業務に関する意見交換までに至っていないのが現状である。価値のある会話となるよう研修が必要。
	危機管理体制の充実	本校の危機管理マニュアル及び防災避難訓練の在り方を随時見直し、地域と連携した活動を行う。また、情報セキュリティに関して、生徒・教職員にセキュリティポリシーの啓発に努める。	B	他の規定とともに編集作業を進めている。現在も検討が続いており、本校の実情に応じた案を作成している。	次年度以降も引き続き、検討を続けていきたい。避難訓練などを実施した際に事後の検証を大切にしていきたい。
学習指導	家庭学習の充実	高い目的意識と主体的な家庭学習習慣を身に付けさせ、平均家庭学習時間150分以上を達成する。 A：150分以上 B：140分以上 C：120分以上 D：90分以上 E：90分未満	B	平常時の平均時間は144分であり、目標を達成することができなかった。昨年度の平均時間が158分だったので14分下回った。公営塾との連携が密になったことや、担任等による定期考査に対する意識付けと動機付けがなされたことで、進路への意識や進路実現への意欲の高揚も見受けられるが、学習へ取り組む意欲に格差がみられる。	適切な課題を与えることや、一人一台端末、スタディ・サプリ等を用いて、平常時から継続的に学習する意識を向上させていきたい。また、家庭学習習慣が身に付いていない生徒に対しては学習方法から指導していく必要がある。令和6年度から教育課程も変更し、放課後時間の活用方法について、公営塾や地域の関係者の方々と連携も一層図っていききたい。
	教科指導の充実	積極的に研修を行うことで教員の指導力向上を図り、生徒の授業評価ポイント4.0以上を目指す。 A：4.0以上 B：3.8以上 C：3.6以上 D：3.4以上 E：3.4未満 漢検2級取得者3人、実用英検2級取得者8人、商業資格検定3種目1級合格者2名以上を目指す。 A：13人以上 B11人以上 C：9人以上 D：7人以上 E：7人未満	A E	新学科設置に係る「教科横断型学習とSTEAM教育の違いについて」等の研修を通して、教員の共通認識や指導力向上を図ることができた。また、全校生徒に対し授業評価アンケートを実施して、今年度も全ての教員が4.0以上をクリアできた。 漢検2級取得1人、英検2級取得4人、商業資格検定3種目1級取得1人であった。商業資格検定では部門1級合格者は24名ということもあり、もう少しで目標を達成できる検定もある。検定の合格に向けて目標を立てて計画的に勉強させたり、意識づけをしていく必要がある。	引き続き、生徒からの評価をもとに授業内容を改善するとともに、ICT機器やスタディ・サプリを活用して分かりやすい授業を心掛けたい。さらに今後はオンライン授業にも即座に対応するだけでなく、オンデマンド配信等への対応についても研究も深めていきたい。 意識付けや動機づけを継続して行い、公営塾とも連携を図り、より高い資格検定合格を目指すさせたい。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり効果がなかった E：成果がなかった）とする。

生徒指導	生活指導の充実	身だしなみ指導を毎月1回実施し、毎回不合格者0人を目指す。	B	毎月1回の身だしなみ指導は実施したが、数名の不合格者がいた。	普段から風紀委員会からの呼びかけを行い、身だしなみを整える意識を高める。
	交通安全指導の充実	毎月1回交通安全指導日を設け、通学路の交通指導を行う。ヘルメットの確実な着用を呼びかけ、自転車・原付通学バイク生の無事故・無違反を目指す。	B	自転車通学生はいないが、使用する時はヘルメットの着用するよう指導した。年度始めに運転の未熟さから、バイク通学生の追突や転倒の事故があり、その都度バイク通学生を集めて安全運転について指導した。	バイク通学生について、月に1回集会を開き、交通安全指導を行う。
	奉仕の精神を養う教育の充実	地域に貢献する奉仕活動を1回、校内の環境美化意識を高める奉仕活動を2回実施する。	A	奉仕活動を行い、環境美化意識を高めることができた。	次年度も継続して奉仕活動に取り組みたい。
	主体性を育てる教育の充実	各クラスにおいて、各種専門委員を一人一役経験させる。	A	クラスの人数にばらつきはあるものの、各種専門委員を経験させることができた。	生徒数の少ないクラスがあるので、委員会活動が負担とならないように配慮したい。
進路指導	キャリア教育の充実	社会人やキャリアコンサルタントによる講演会、企業説明会を年2回以上実施する。	A	校内だけでなく外部組織等と連携して、進路に関する説明会や行事を行うことができた。	外部組織や各学年等と連携し、講演会開催や愛媛県内の企業と連携したキャリア形成の取組について系統的に進めていく。
	多様な進路希望に応じた指導の充実	進路情報を学期に1回以上発信し、 <u>進路意識の向上を図り、生徒の進路実現につなげる。</u>	B	企業説明会、オープンキャンパス、進路情報の掲示や配布、HR活動等を通して進路意識の向上を図ることができたが、学年によって情報提供の差が生じた。	進路実現に対する意識の向上については十分とはいえない。提供する進路情報や進学関係行事の内容・方法を検討し、改善する。
		進学、就職内定率100%を達成する。 A：100% B：95% C：90% D：85% E：85%未満	B	就職については内定率100%を達成した。進学については、まだ受験する生徒もいるが、個に応じた指導を行い、生徒も粘り強く取り組む姿が見られる。	早い段階から進路目標を設定して対策ができるように指導するとともに、個別指導を充実させて生徒の進路の実現を図りたい。
人権教育	人権学習の充実	人権・同和教育ホームルーム活動の年3回実施や年1回以上の人権講演会を通して、人権意識の高揚を図る。	A	年3回のホームルーム活動と人権講演会を実施することができた。	来年度も継続して実施したい。
		人権委員会を中心とした生徒主体の啓発活動を充実し、人権だよりを年1回以上発行する。 A：6回以上 B：5回 C：4回 D：3回 E：3回未満	A	毎月人権新聞を発行することができた。愛媛県が掲げている人権課題について考えを深めることができた。	来年度も継続して実施したい。
	情報モラル教育の充実	授業や講演会などを通して携帯電話やインターネットの適切な利用法を理解させ、他者の人権を尊重する態度を育てる。	C	生徒課と協力して情報モラル教育を行うことができた。	生徒の間で正しい使い方ができていない事例を聞くので、より効果的な指導方法を考えていきたい。
	異文化理解の充実	国際交流会等を通して異文化への関心を高め、異文化を尊重する態度を育てる。	A	3名の短期留学生を送り出し、報告会を行うことができた。	来年度も継続して実施したい。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり効果がなかった E：成果がなかった）とする。

現職教育	研修の充実	校内研修を年5回実施するとともに、校外研修の活用や研修報告を通して、資質向上を図る。	C	校内研修5回、郊外研修へも多くの教員が参加することができた。	研修報告を充実させ、教員の授業力の向上や資質向上につなげていきたい。
		年5回以上の研究授業や公開授業時のアンケート・教員相互の授業参観等を通して、授業改善に役立てる。	C	研究授業5回を行うことができた。公開授業時では、教員相互の授業参観を行うことができた。	研究授業後の会議への出席率が悪いので事後指導を充実させたい。
保健・安全管理	保健活動の充実	毎月1回、生徒の健康課題に沿った「保健だより」を発行するとともに、主体的な生徒保健委員会活動を目指し、SHR発表や掲示物作成等を積極的に行い、健康に関する情報発信と意識向上に努める。	A	毎月保健だより発行の際に生徒保健委員がSHR発表を実施できた。全校集会発表や啓発動画の製作等においては、生徒が企画・運営において好奇心を持って表現することに挑戦し好評を得るとともに、健康意識向上に努めることができた。	テーマを決めて生徒が自分の言葉で主体的に活動する保健委員会活動を継続させ、委員会活動を通してコミュニケーション力を高め、達成感を得られるような実践方法を考えていきたい。
		生徒に対し、専門家による健康に関する講話を開催する。	A	7月に「心の健康」に関する臨床心理士の講演を実施した。事後アンケートにおいては「分かりやすかった90.9%」「役に立った86.5%」であった。	健康課題に即した講話や研修などを取り入れ、生徒の心身の健康管理と意識向上に努めたい。
	衛生管理の徹底	毎月1回衛生委員会を開催する。	A	毎月1回衛生委員会を実施できた。また職場巡視により職場環境の改善等に対応できた。	教職員健康管理医と連携し、感染症対策や職場巡視等を的確に行っていききたい
		教職員に対し、メンタルヘルス等の講話及び研修を年1回以上開催する。	B	教職員対象に講話は実施できなかった。教職員健康管理医による健康相談等において、心身の健康管理に努めた。	教職員の健康相談の充実とメンタルヘルス等の講話や研修を実施したい。
安全管理の徹底	毎学期1回安全点検を実施する。	A	学期に1回安全点検を実施し、速やかな事後措置により安全管理が徹底できた。	事務課と連携し、施設設備の老朽化について対応優先するもの把握し、安全管理に努めたい。	
図書活動	図書活動の充実	朝の読書の質の向上を目指すとともに、ブックトークなどを通じて読書に対する意識を向上させる。	A	授業でブックトークを実施し、意識を向上させることはできたと感じられる生徒が増えた。	朝読書の質を向上させるため、ブックトークの内容を改善し、より多くの生徒に読書の意識を浸透させるものにしていきたい。
		図書委員会で「図書館だより」を年間6回以上発行し、図書館活動を生徒・保護者に啓発する。	B	図書館だよりの発行回数は目標に満たなかったが、読書感想文の課題図書の紹介等、啓発を行うことはできた。	来年度も引き続き図書館だよりを発行し、生徒・保護者に啓発活動をしていきたい。
		図書館来館者数延べ250人、年間一人あたりの貸出数3冊以上を目指す。 A：250人以上 B：200人以上 C：150人以上 D：100人以上	C	貸出数150冊以上を達成することができたが、200人以上を達成することができなかった。	図書委員会で図書館の利用についてさらに啓発活動をしていくことで、多くの生徒に利用してもらえるようにする

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり効果がなかった E：成果がなかった）とする。

P T A 活 動	P T A 活動の充実	ホームページやFacebook等を日々更新し、 <u>三崎高校だより「花橘」を毎月発行することで、学校行事や生徒の活動の様子を伝えていく。</u>	A	ホームページは毎日更新し、Facebookと合わせて、生徒の活動の様子を発信できた。毎月発行の三崎高校だより「花橘」やマチコミ等を通じて、保護者に必要な情報を伝えることができた。	生徒が参加する地域イベント等の情報が保護者に伝わるよう、ホームページやマチコミを使って発信したい。
		<u>P T A 総会等の学校行事への出席率を向上させるとともに、オンライン参加もできるよう工夫する。</u>	A	P T A 総会は4年ぶりに対面で開催し、オンライン参加もあった。町外から来校された保護者の割合が多かった。体育祭や文化祭等を実施し、多くの保護者に来校していただいた。	学校行事を通して、生徒の様子を保護者に見ていただくだけではなく、学校や地域の魅力も感じていただく機会を増やしたい。
事 務	教育行政職員としての適切な業務の遂行	光熱水費・消耗品費の節約を啓発するとともに、計画的で効果的な予算執行をする。文具類等のリサイクルの推進に努める。 迅速かつ適正な事務処理をする。	B	節約の啓発に努めた結果、計画的に予算執行することができた。 リサイクルトナーの購入等により、例年より適正な予算を執行することができた。	来年度も引き続き、機会あるごとに教職員・生徒へ節約意識の徹底を図っていききたい。
	環境整備と安全管理	定期的な校内巡視により、不良箇所の早期発見・早期対応に努め、安全確保に努めるとともに施設の長寿命化を図る。 屋外環境の保全と美化に努める。	B	校内巡視や教職員の点検・連絡により、修繕箇所等へのすみやかな対応を行った結果、施設が原因の事故は0であった。毎日の環境整備により美化に努めることができた。	来年度も引き続き、安心・安全な施設管理、環境整備を行っていききたい。
地域活動	地域と連携した取組	地域行事等への参加、年10回以上を目指す。 <u>A：12回以上 B：10回以上 C：5回以上 D：3回以上 E：不参加</u>	A	地域行事等に20回（今後の予定2回を含む）参加するなど、意欲的に地域活動等に参加することができた。	新型コロナウイルスの流行が収まったこともあり、地域からの依頼が増加しているため、参加方法なども工夫して生徒の負担を軽減させながら活動できるようにしていきたい。
	生徒の自主的な活動の充実	地域活性化に関するコンクール等へ積極的に応募する。 A：5回以上 B：3回以上 C：2回 D：1回 E：不参加	A	コンクール等に6回応募し、「ネイチャー甲子園」3位、「いやしの南予BBQ甲子園」最優秀賞などの成果を取めた。	校内で役割分担をし、生徒の関心に合わせて積極的にコンクール等に参加できる体制を整えたい。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり効果がなかった E：成果がなかった）とする。